



### 真剣に聞く受講生のようす

# 二級ホームヘルパー養成研修宮城講座を担当して 温かい気持ちと 復興に向けた元気に出会って

宮城講座は、通信添削リポートを記入してから面接指導の座学を行う組み立てになっていましたので、受講生はすでに疑問を持って講座に臨んでいました。

一日目は、福祉の理念や基本がテーマで、さらに受講生の頭を悩ませてしまう項目でした。最初の様子は、反応もなく表情が硬く感じられました。しかし、時間が経つにつれて休み時間になると、リポートに対する質問や語り合う会話に笑い声が聞こえるようになりました。また質問の箇所は、正しい答えがでとつなのか疑問に思う箇所ばかりで、みんながこの講座に真剣に取り組んでいるのだと感じました。

二日目のレクリエーションになると、受講生同士で助け合う様子や大きな笑い声で、ほのぼのとした心和む雰囲気で一杯になりました。

その時の受講生の笑顔や話してくれた思い出話は、宮城の素直な温かい気持ちと復興に向けた元気が伝わってきました。

今回の講座に参加させていただき、みんなと出会えた喜びと幸<sup>め</sup>を感じた時間は、私の一生の宝ものとなりました。ありがとうございました。

支えたい

の支援活動としてどのよう  
な支援ができるのか検討す  
るために先遣隊が出向き、  
宮城県山元町のケアマネジ  
マーの高橋朝弥さんと出会  
いました。山元町は宮城県  
南部の海に面した小さな  
治体。福島との県境にも位  
置します。人口15,00

者の苦労が高く、都心部に比べて復旧も遅れ、都市部への若者の人口流出もあり、介護に携わる人たちも疲弊化しているようでした。急速、7月より山元町の福祉施設に二人一組で順次応援に入りました。少しでも現地スタッフの支えになれたからとの思いで、シーツ交換や車いすの掃除、洗濯など後方支援を行いました。送り出してくれる仲間の協力のもと、2012年6月ま

いち早く被災地に救援物資などを届ける支援を行なっていたグリーンコープに呼応して、「被災地の役に立ちたい」とグリーンコープの福祉ワーカーズ連合会が2011年6月から被災地の福祉施設に福祉ワーカーを派遣する人的支援をスタート。2012年8月からは、支援の次の段階として現地で福祉の担い手を養成する支援を行なっています。これまでの支援活動の経過と、実際にボランティアで活動してきた福祉ワーカーの報告を掲載します。

で、延べ101人の福祉ワーカーが支援に入りました。「直接現地を訪れ被害の大きさを肌で感じ、介護に携わる者として誠心誠意支援を行つてきました」と被災地へボランティアに赴いたワーカーは一様に報告しています。



## 「基本介護技術」のようす

1人の受講生が集まりました。受講生の皆さん、資格をとつて地域で働きたいたと意欲的に参加されていました。受講者はテキスト代のみ負担し、復興支援募金等から経費を拠出しています。グリーンコープの福祉ワーカーは講義や実技の講師、添削指導などを担当しています。9月からは施設実習も始まり、10月9日には修了式を迎える予定です。

## 福祉ワーカーズによる被災地への支援報告